

AI時代の職業奉仕

神保 宏充会員

私は、昨年度、西村地区職業奉仕委員長のもとで地区職業奉仕委員を務めさせていただきました。本日は、その活動で学んだことを踏まえながら、「AI時代の職業奉仕」について、皆様と一緒に考えてみたいと思います。

■ 職業奉仕とは何か

「職業奉仕」は、ロータリーの基本的な理念の一つです。標準ロータリークラブ定款では、「事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきである」という認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものとされています。より噛み砕いて言えば、職業奉仕とは、相手の立場に立った職業活動を行い、相手の喜びを自分の喜びとし、職業人としてより高い倫理の向上に努めることであるといえます。さらに、近年では、このような価値観を世の中に広めていくことも職業奉仕の一つであると考えられています。

「超我の奉仕」や「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」といったロータリーの標語は、自己の利益より相手へのサービスを優先することで、それが結果的に自分の利益や幸せにつながることを示しています。このような「奉仕の理念」こそが、職業奉仕の中核的な価値であるといえます。

■ 弁護士業務とAI

私は、弁護士をしておりますが、弁護士業務においても、最近では様々な形でAIが利用されつつあります。例えば、契約書のチェックなどはAIが得意とする分野であり、省力化、スピード短縮、網羅的な検討といった点では大きなメリットがあります。

しかしその一方で、AIには限界もあります。例えば、相談者からのヒアリングをAIに任せることは難しく、微妙なニュアンスを読み取りながら行わなければならない相談業務では人間が中心的な役割を果たすといえます。また、AIに問いかければ、いくつかの解決手段を示してくれますが、数ある選択肢のなかでどれが依頼者にとって最も妥当であるかを見極めるのかは、弁護士の役割であり責任でもあります。

AIは便利な道具ですが、全てをAIに任せるわけにはいきません。弁護士業務は依頼者との信頼関係で成り立っていますから、弁護士が自ら関与することは必要不可欠であるといえます。

■ AIのリスクと倫理～「四つのテスト」～

AIは我々人間に恩恵をもたらす一方で、一定のリスクがあり、倫理的な課題もあります。たとえば、AIを利用する際に個人情報や機密情報を入力した場合には、プライバシーの侵害や個人情報・機密情報の漏えいといった問題が生じます。また、AIを利用した採用活動では、不公正な判断や特定の者の不当な取り扱いが生じる可能性があり、AIによる不当な差別が生じるおそれもあります。さらには、生成AIが誤った情報を作成したり、他人の著作物と酷似したものを生成したりする可能

性があるなど、誤情報の作成や著作権侵害の危険性もあります。

このようなリスクに対応するため、世界でもAI倫理に関する議論が進んでいます。日本の研究者が提案した「AI8原則」では、個人のプライバシー、説明責任、安全性とセキュリティ、透明性と説明可能性、公平性と無差別、人間による制御、専門家の責任、人間の価値の促進といった項目が挙げられています。

このようなAIの倫理的課題への一つの対処法として、私個人としては、ロータリーの「四つのテスト」が役立つのではないかと考えています。

- ① 真実かどうか？ : AIが作成した情報に誤った情報が含まれていないか。
- ② みんなに公平か？ : AIによる判断は公平か。差別的な判断をしていないか。
- ③ 好意と友情を深めるか？ : AIの利用が人間関係や社会の分断を生じさせないか。
- ④ みんなのためになるか？ : AIの利用が関係者の利益や社会的な貢献につながるか。

このテストによってAIの倫理的課題を全て解決できるわけではありませんが、まずはこれらの問いを心に留めておくことが、AIの倫理的な利用にも役立つと考えます。

■ AI時代の職業奉仕とは

AI技術の進化によっても、「奉仕の理念」の本質は変わりません。むしろ、AI時代であるからこそ、私たち人間の関与がより一層重要になっており、「奉仕の理念」に従った判断を私たちが行うことが求められているのです。

私が、AI時代の職業奉仕において重要だと考える点は、次の3点です。一つ目は、AIリテラシーの向上です。AI技術を理解し、自分の職業にどのように生かせるのかを正しく知る必要があります。二つ目は、AI利用における倫理の徹底です。AI利用における倫理的課題を意識し、AI利用に伴うリスクをできる限り最小限に抑える必要があります。三つ目は、人間の関与や人間の価値の重視です。AIはあくまで道具です。最終的な判断は、私たち人間にしかできません。AIを道具として利用することにより、私たちの社会をより豊かにするという発想が重要であるといえます。

AIを活用しなければならない時代だからこそ、我々ロータリアンがこれまで培ってきた「奉仕の理念」に立ち返り、それを社会に広めていくことに大きな意義があると感じています。